

第4期海老名市外国語教育実施計画



令和7年10月
海老名市教育委員会

目次

1 海老名市外国語教育実施計画について

(1) 計画策定の目的	1
(2) 策定に向けた組織	1
(3) 計画の期間	1

2 これまでの海老名市外国語教育について

(1) 小学校外国語活動の取組	2
(2) 中学校外国語科の取組	6

3 海老名市外国語教育の現状について

(1) 小学校教員の現状	8
(2) 中学校英語科教員の現状	11
(3) 小学校児童の現状	13
(4) 中学校生徒の現状	15
(5) ALT 活用の現状	17

4 これからの海老名市外国語教育について

(1) グランドデザイン	20
(2) 9年間で育てる子ども像・カリキュラム	21
(3) 具体的な取組	22

1

海老名市外国語教育実施計画について

(1) 計画策定の目的

海老名市では、本市の教育理念である「ひびきあう教育」のもと、海老名市の子どもたちが海老名で育ったことに自信と誇りを持ち、身近な人々はもちろん、世界の多種多様な人々とのコミュニケーションを楽しみ、お互いを尊重しながら、協働して社会に参画していく姿を目指している。そのために、小中学校外国語教育の充実、強化を図り、小中学校の文化に根差した外国語教育を推進するための計画として策定するものである。

(2) 策定に向けた組織

今後の海老名市の外国語教育の在り方を検討・協議する「海老名市外国語教育推進協議会」を発足し、「第4期海老名市外国語教育実施計画」を策定する。

【構成メンバー】

校長代表	…	小宮 洋子（柏ヶ谷中学校）、住田 晶子（有馬小学校）
教頭代表	…	楠 祐子（海老名小学校）
小学校代表	…	丹内 清香（海老名小学校）、高橋 美也子（有鹿小学校） 原 毅（門沢橋小学校）、松本 唯斗（今泉小学校）
中学校代表	…	田中 綾（海老名中学校）、桑島 安紀子（今泉中学校）
外部委員	…	井上 博之（県央教育事務所指導主事）
市教育委員会	…	麻生 仁（教育支援担当部長兼教育支援課長）、五十嵐 光 佐藤 英恵（主担当）

(3) 計画の期間

令和8年度から令和10年度までの3年間

2

これまでの海老名市外国語教育について

(1) 小学校外国語活動の取組

① 平成 19 年度

海老名市では、平成 14 年度より外国人英語指導講師 1 名を市内小中学校に配置した。社家小学校が平成 16 年度から 3 年間、神奈川県戦略プロジェクト「国際性豊かな人づくり」の中の取組みとして、「国際・外国語教育の推進」を図るため、研究委託を受け、ELT との T・T による外国語活動の研究を進めてきた。社家小学校では、年間 1 クラス 20～25 時間実施した。同時に、外国人英語指導講師 2 名を市内小中学校に配置し、小学校では、各クラス年間 2 時間程度の外国語活動を実施した。

さらに小学校外国語活動を推進するため、平成 19 年度は、外国人英語指導講師を 5 名に増員し、小学校 5・6 学年 各クラス年間 10 時間、1～4 学年は、各クラス年間 5 時間程度の外国語活動を実施した。【資料①参照】

【資料①】平成 19 年度の状況

	小学校 一般校		小学校 研究推進校		中学校
	1～4 学年	5・6 学年	1～4 学年	5・6 学年	1～3 年
年間授業時数	5 時間	10 時間	10 時間	20 時間	16 時間程度
派遣述べ日数	346 日		143 日		373 日
派遣 ELT 人数	ELT 5 人内訳；小学校のみ派遣 1 人 / 中学校のみ派遣 1 人 / 小・中学校派遣 3 人				

② 平成 20 年度～平成 29 年度

平成 20 年以降の小学校英語活動の実施時間数・ELT の派遣日数は次のとおり。平成 29 年度より ALT (外国人指導助手) とし、委託契約から派遣契約に切り替えた【資料②】

【資料②】平成 20 年度以降の小学校外国語活動年間時間数と ELT・ALT 派遣状況

≪平成 20 年度～平成 22 年度≫

	小学校 一般校		小学校 研究推進校		派遣日数	派遣数
	1～4 学年	5・6 学年	1～4 学年	5・6 学年		
平成 20 年度	5 時間	20 時間	10 時間	20～35 時間	680 日	4 人
平成 21 年度	5 時間	20 時間	10 時間	35 時間	863 日	6 人
平成 22 年度	5 時間	35 時間	10 時間	35 時間	885 日	6 人

≪平成 23 年度～平成 29 年度≫ (小学校全校で同じ年間時間数)

	1・2 学年	3・4 学年	5・6 学年	派遣日数	派遣数
平成 23 年度	10 時間前後	10 時間前後	35 時間	1086 日	6 人
平成 24 年度				1104 日	6 人
平成 25 年度				1104 日	6 人
平成 26 年度				1122 日	6 人
平成 27 年度				1080 日	6 人
平成 28 年度				1111 日	6 人
平成 29 年度				1093 日	6 人

③ 平成 30 年度～平成 31 年度(令和元年度)

平成 30 年度は、新学習指導要領の移行期間措置として実施。平成 31 年度（令和元年度）は、新学習指導要領を先行的に実施。

【資料③】平成 30 年度～令和元年度 小学校外国語活動年間時間数と ALT 派遣状況

	1・2 学年	3・4 学年	5・6 学年	派遣日数	派遣数
平成 30 年度	10 時間	15 時間	50 時間	1298 日 1 人当たり 185 日前後	7 人
平成 31 年度 (令和元年度)	10 時間	35 時間	70 時間	1827 日 1 人当たり 183 日前後	10 人

④ 令和2年度～令和4年度

令和 2 年度から全面実施となった新学習指導要領の内容に沿った形で実施。

【資料④】令和 2～4 年度 小学校外国語活動外国語年間時間数と ALT 派遣状況

	1・2 学年	3・4 学年	5・6 学年	派遣日数	派遣数
令和 2 年度 ～ 令和 4 年度	10 時間	35 時間	70 時間	1876 日 1 人当たり 187 日前後	10 人

⑤ 令和5年度～令和7年度

【資料⑤】令和 5～7 年度 小学校外国語活動外国語年間時間数と ALT 派遣状況

	1・2 学年	3・4 学年	5・6 学年	派遣日数	派遣数
令和 5 年度 ～ 令和 7 年度	10 時間 + EnglishDay 1 時間	35 時間 + EnglishDay 1 時間	70 時間 + EnglishDay 1 時間	1867 日 1 人当たり 186 日前後	10 人

⑥ 平成 27 年度以降の小学校における主な取組内容

小学校での外国語教育は、中学校英語の前倒しではなく、「コミュニケーション能力の育成」を、言語活動をとおして育成することをねらいとしている。海老名市では、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、ALT を配置して、外国語・外国語活動の授業を行い、自分と違う文化をもつ外国人と触れ合い、自分の考えや思いを伝えようとしたり、相手のことを理解しようとする努力したりする態度の育成を重視してきた。

平成 28 年度に第 1 期海老名市外国語教育実施計画を策定し、令和元年度に第 2 期海老名市外国語教育実施計画を策定した。本市の児童生徒が、わがまち海老名で育ったことに自信と誇りを持ち、身近な人々はもちろん、世界の多種多様な人々とのコミュニケーションを楽しみ、お互いを尊重しながら、協働して社会に参画していく姿を目指して、外国語教育のあり方を研究及び推進してきた。

具体的には、学級担任主導による効果的な指導の工夫、ALT を有効活用した TT 授業の実践などを研究し、教員研修会等で具体的な指導方法との共通理解を図りながら推進してきた。

【平成 27 年度】

- 外国語教育推進リーダー教員養成中央研修へ派遣（杉本小学校 丹内清香 教諭）

【平成 28 年度】

- 海老名市外国語教育実施計画策定（平成 29 年 3 月）
- 児童生徒アンケート、小中学校教職員アンケートを実施
- 外国語教育推進業務委託プロポーザル（インテック委託期間平成 29～31 年度の 3 年間）
- English Day の試行（社家小学校、今泉小学校）

【平成 29 年度】

- 新学習指導要領の告示（平成 29 年 7 月）
- 海老名市外国語教育推進指定校を設置（今泉小学校、上星小学校）※平成 29～30 年度
- 今泉小学校校内研究授業及び研究協議会を全小中学校へ公開（通年）
- English Day を全小学校で実施
- 小学校教員研修会を全小学校で実施

【平成 30 年度】

- 新教材を配付（Let's Try! ①②、We Can! ①②）
- 小中学校合同の外国語教育教員研修会を実施（7 月）
- 今泉小学校・上星小学校校内研究授業及び研究協議会を全小中学校へ公開（通年）
- 海老名市オリジナル単元「Welcome to Ebina」の単元計画及び指導案を作成

【平成 31 年度（令和元年度）】

- 新学習指導要領全面実施に先立ち、小学校 3・4 年生で 35 時間、5・6 年生で 70 時間の外国語活動の授業を実施（通年）
- 児童生徒アンケート、小中学校教職員アンケートを実施
- 第 2 期 海老名市外国語教育実施計画策定（令和元年 10 月）
- 外国語教育推進業務委託プロポーザル（インテック委託期間令和 2～4 年度の 3 年間）
- 英語専科担当教員を 2 名配置（市内 3 小学校）

【令和2年度】

- 新学習指導要領全面実施（小学校3・4年生で外国語活動、小学校5・6年生で外国語科の授業が始まる）
- 英語専科担当教員を4名配置（市内7小学校）
- 小学校外国語教育研修会を動画視聴で実施（7～9月）

【令和3年度】

- 外国語・外国語活動指導法講座（外部講師による小学校外国語科の示範授業及び講義）を実施（9月）

【令和4年度】

- 外国語・外国語活動指導法講座（小学校英語専科担当教員による実践事例紹介）をオンデマンド実施（9月）

【令和5年度・令和6年度】

- 小学校外国語専科担当教員公開授業と市主催研修を、専科教員本務校および市で共催外部講師による講義を含む、研究授業として実施（年間4回）
- 市主催選択研修として、外国語・外国語活動指導法講座（外部講師による講義）を実施（7・8月）

【令和7年度】

- 小学校外国語専科担当教員公開授業と市主催研修を、専科教員本務校および市で共催外部講師による講義を含む、研究授業として実施（年間4回）
- 海老名市外国語教育推進校（大谷中学校区）3校合同での公開授業研究を中学校で実施。（11月）
- 海老名市教育委員会とALT派遣委託業者の共催で、小中合同外国語指導法講座（外部講師2名による講義）を実施（8月）

(2) 中学校外国語科の取組

① ELT・ALT の派遣状況

海老名市では、平成 14 年度より外国人英語指導講師 1 名を市内中学校に配置した。平成 16 年度は各クラス 8 時間程度、平成 18 年度は、各クラス年間 10 時間、19 年は 12 時間、平成 20 年度以降は、ELT 3 名が市内 6 校に行き年間約 20 時間、平成 24 年度以降は年間 25 時間の授業を実施した。【資料③】

【資料⑥】平成 20 年度以降の中学校英語科年間時数と ELT・ALT の派遣状況

	中学校外国語科年間時数 (ELT・ALT との TT による年間授業時数)			派遣日数	派遣数
	1 年生	2 年生	3 年生		
平成 20 年度	105 時間 ※週 3 時間 (20 時間)			509	3 人
平成 21 年度				516	3 人
平成 22 年度				531	3 人
平成 23 年度				543	3 人
平成 24 年度				552	3 人
平成 25 年度				552	3 人
平成 26 年度				561	3 人
平成 27 年度	140 時間 ※週 4 時間 (25 時間)			540	3 人
平成 28 年度				540	3 人
平成 29 年度				549	3 人
平成 30 年度				390	※2 人
平成 31 年度				549	3 人
令和 2 年度				558	3 人
令和 3 年度				575	3 人
令和 4 年度				558	3 人
令和 5 年度				558	3 人
令和 6 年度				564	3 人

※平成 24 年度からは、学習指導要領の改訂により、年間時数が増え、学習内容も増加。

(参考：単語数が 900 語→1200 語)

※平成 30 年度のみ、小学校学習指導要領移行期のため、小学校に 7 名、中学校に 2 名派遣。

② 平成 28 年度以降の中学校における主な取組内容

【平成 28 年度】

- 海老名市外国語教育実施計画策定（平成 29 年 3 月）
- 児童生徒アンケート、小中学校教職員アンケートを実施
- 外国語教育推進業務委託プロポーザル（インタック委託期間平成 29～31 年度の 3 年間）
- 海老名市版「Can-Do リスト」の作成

【平成 29 年度】

- 新学習指導要領の告示（平成 29 年 7 月）
- 海老名市外国語教育推進指定校を設置（今泉中学校）※平成 29～30 年度
- 今泉小学校校内研究授業及び研究協議会への中学校英語科教員の参加
- 海老名市版「Can-Do リスト」の改訂
- 外国語教育推進リーダー教員養成中央研修へ派遣（海老名中学校 鈴木千草 教諭）

【平成 30 年度】

- 大谷中学校にて「English Workshop」を実施（4 月）
- 小中学校合同の外国語教育教員研修会を実施（7 月）
- 今泉小学校・上星小学校校内研究授業及び研究協議会への中学校英語科教員の参加
- 今泉中学校研究授業及び研究協議会を市内全小中学校へ公開（11 月）

【平成 31 年度（令和元年度）】

- 全国学力・学習状況調査の英語科を実施（4 月）
- 第 2 期 海老名市外国語教育実施計画策定（令和元年 10 月）
- 外国語教育推進業務委託プロポーザル（インテック委託期間令和 2～4 年度の 3 年間）
- 英語専科担当教員による小学校における公開授業への中学校英語科教員の参加

【令和 2 年度】

- 英語専科担当教員による小学校における公開授業への中学校英語科教員の参加

【令和 3 年度】

- 外国語・外国語活動指導法講座（外部講師による小学校外国語科の示範授業及び講義）への中学校英語科教員の参加

【令和 4 年度】

- 外国語・外国語活動指導法講座（小学校英語専科担当教員による実践事例紹介）への中学校英語科教員の参加

【令和 5 年度・令和 6 年度】

- 小学校外国語専科担当教員公開授業を市内全小中学校へ公開（年間 4 回）
- 市主催選択研修として、外国語・外国語活動指導法講座（外部講師による講義・中学校向け）を実施（9 月）
- 海外（台湾）とのオンライン交流の実施（各年 2 校）

【令和 7 年度】

- 小学校外国語専科担当教員公開授業を市内全小中学校へ公開（年間 4 回）
- 海老名市教育委員会と ALT 派遣委託業者の共催で、小中合同外国語指導法講座（外部講師 2 名による講義）を実施（8 月）
- 海外（台湾）とのオンライン交流の実施（2 校）
- 大谷中学校区の 2 小 1 中による外国語教育推進研究（R6 年度からの 2 年間）

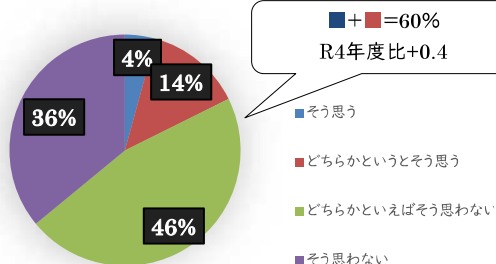
3 海老名市外国語教育の現状について

(1) 小学校教員の現状

海老名市教育委員会では、令和4年6月に、市内小学校教員を対象に「外国語教育アンケート」を実施した。

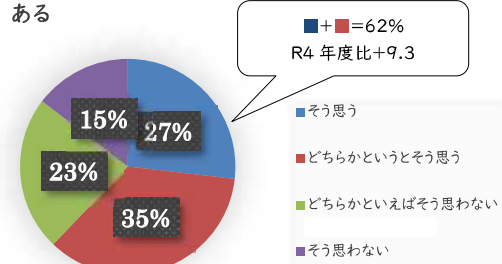
結果①

外国語を話すことが得意である



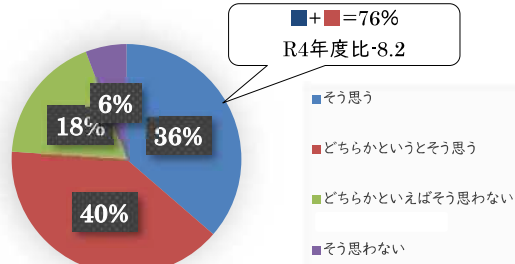
結果②

外国語活動・外国語を指導することに抵抗感がある



結果③

外国語活動・外国語の指導に難しさを感じている



考察① 【結果①～③より】

小学校の先生方は、

- 外国語を話すことに苦手意識をもつ人が多い。
- 外国語活動・外国語を指導することに抵抗を感じている人が依然多い。増加傾向。
- 外国語活動・外国語の指導に難しさを感じている人は依然多いが、減少傾向である。

結果④

小学校の教員に必要と感じる外国語教育関係の研修についてあてはまるものをすべて選んでください。

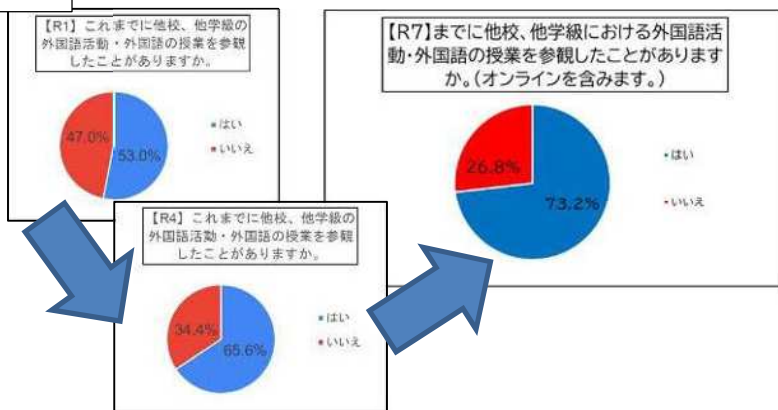


考察② 【結果④より】

小学校の先生方は、

- 授業計画や教材を作成する研修(53.7%)
- 評価方法について共通理解を図ったり、協議したりする研修(50.5%)
- 学級担任等とALTの連携による授業参観・協議(48.9%)
- …といった研修の必要性を感じている。

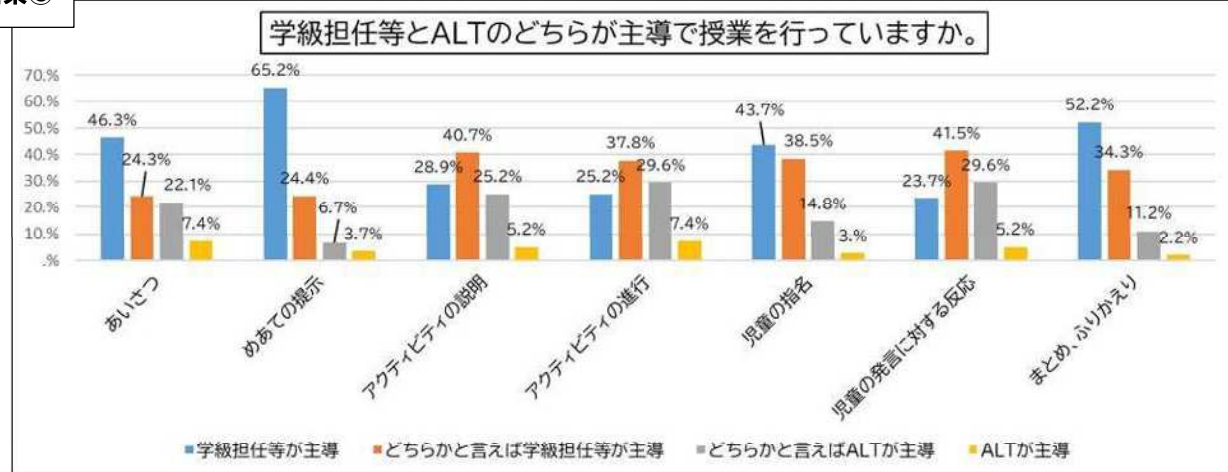
結果⑤



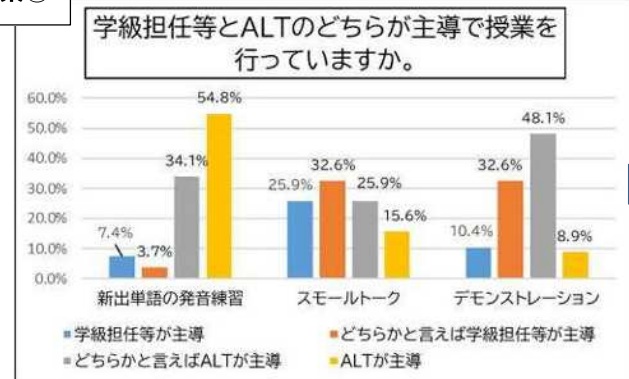
考察③ 【結果⑤より】

小学校の先生方は、外国語活動・外国語の授業についての研修に進んで取り組むようになってきている。(前回比+7.6%)

結果⑥



結果⑦

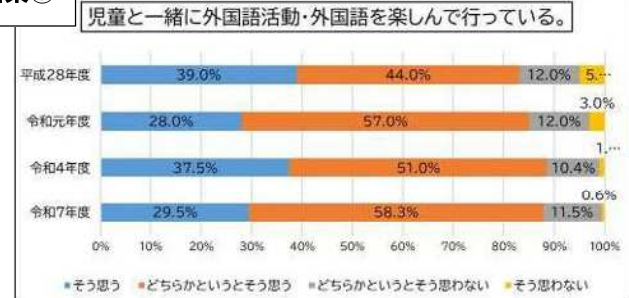


考察④ 【結果⑥・⑦より】

小学校の先生方は、授業において...

- あいさつ、めあての提示、活動の説明・進行、まとめ・振り返り等、授業の核となる部分は学級担任等が主導で行っている。
- 発音練習、スモールトーク、デモンストレーション(活動の手本)等、英語を聞かせる場面でALTを活用している。

結果⑧



考察⑤ 【結果⑧より】

小学校の先生方は、授業において...

児童と一緒に、外国語活動・外国語の授業に楽しんで取り組んでいる。
また、年々否定的な回答の割合は低くなっている。

今後の小学校外国語教育の実施にあたっての課題は何だと思いますか？（自由記述）

○教職員の指導技術について(34人) ・指導者の指導への意識と研修研鑽の継続 (背景:外国語の指導をしたことがない教員の増加) ・教員側の外国語指導力、コミュニケーション能力 ・教員の授業デザイン、授業力 ・専門性の欠如 楽しく学ばせることはできても、正しい発音での指導は難しい ・授業者による差が大きくなっている。 …等	○専科教員の確保・配置について(16人) ・教科担任にしてほしい。 ・外国語教育の専科教員の確保 ・専科教員による指導と評価 ・英語専科を各学校 1 名ずつ配置できるようにすること。 ・専科の先生の配置 ・専科教諭の配置 ・英語専科の増員 …等
○ALT との連携について(8人) ・ALT との授業研究と学習前の打ち合わせ時間の確保 ・ALT との意思疎通 ・全校で ALT と担任と専科が協力して取り組めば指導力も指導内容も向上していくと思う ・ALT がいない時間の授業の難しさ …等	○中学校との連携について(10人) ・採択教科書の違い ・話す、聞くに重点をおいた指導から、中学でいきなり書くことを求められることにギャップがある。小中の外国語のスムーズな連結が必要。 ・中学以降の外国語教育の改革。ギャップ解消が必要。 …等
○その他(31人) ・1-6年生まで系統立てた学習内容の構築が必要 ・実生活に活用できると、より生きた外国語の力を育成できると考えています。 ・文法やコミュニケーションも大切であるが、国際理解、多文化共生の視点での授業が必要。 ・小学校の外国語教育で何を狙うのかという、「ねらい」の理解が課題だと思います。外国語を「習得」させるわけではなく、多言語に「親しむ」のであれば、ALT の存在はかなり重要です。担任だけで授業を行うことの価値についても、全体理解して行く必要があると思います。 …等	

まとめ

小学校教員アンケートからみてきたこと

- 外国語を話すことが苦手意識のある教員が多く、その指導に難しさや抵抗感を感じている教員が多い。
- そんな状況でも、指導技術を向上させるため、必要な研修を受講しようとする教員が増えている。
- 学級担任等の指導者と ALT の役割の違いについて理解した上で、授業を展開することができるようになってきている。
- 授業内での ALT の望ましい活用場面や活用方法について、教員の理解が進んできている。
- 児童と一緒に楽しんで指導にあたっている。
- 授業交換や教科担任制も入ってきたなかで、教職員の指導技術や専科教員の活用法を含めた指導体制の構築、さらなる ALT との連携について、今後

(2) 中学校英語科教員の現状

海老名市教育委員会では、令和4年6月に、中学校英語科教員を対象に「外国語教育アンケート」を実施した。

結果①

テーマを決め、ペアやグループによる即興の small talk



「よく行う」+「時々行う」の割合が
前回と比べて**-7.4%**

結果②

即興で自分のことや気持ちや考えを英語で話す活動



「よく行う」+「時々行う」の割合が
前回と比べて**+10.3%**

結果③

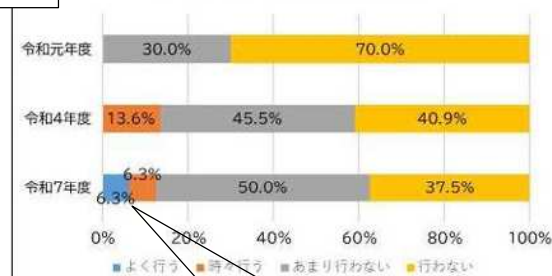
スピーチ・プレゼンテーション



「よく行う」+「時々行う」の割合が
前回と比べて**-2.2%**

結果④

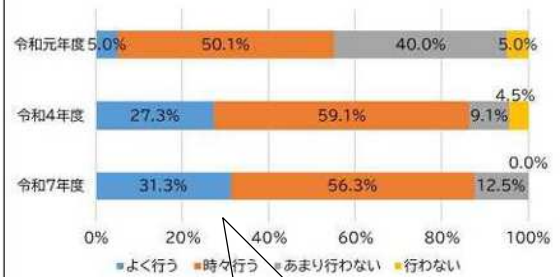
ディベート・ディスカッション



「よく行う」の割合が
前回と比べて**+6.3%**

結果⑤

自分のことや気持ちや考えを英語で書く活動



「よく行う」+「時々行う」の割合が
前回と比べて**+1.2%**

考察① 【結果①～⑤より】

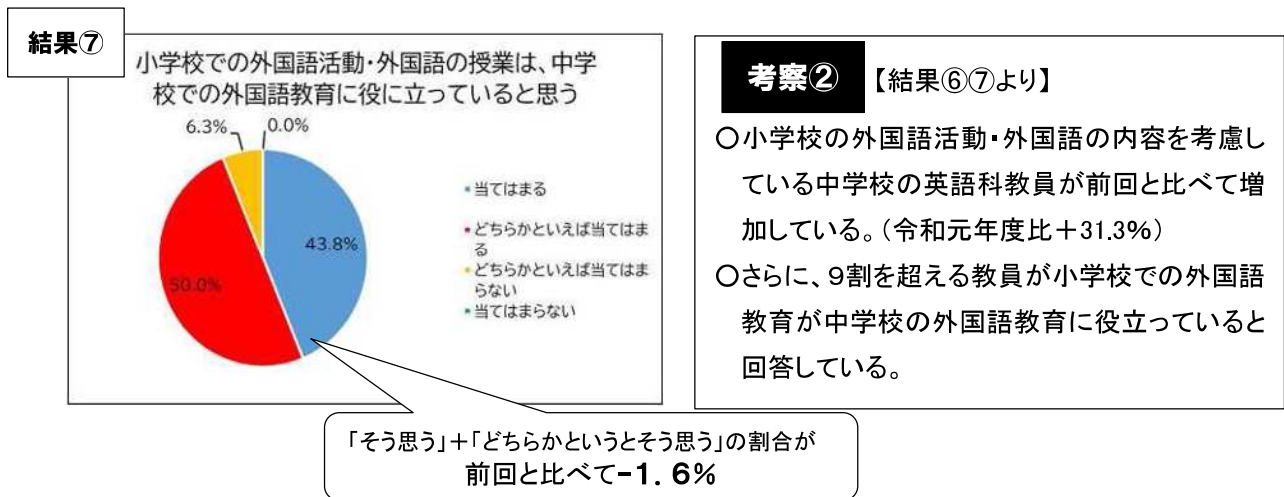
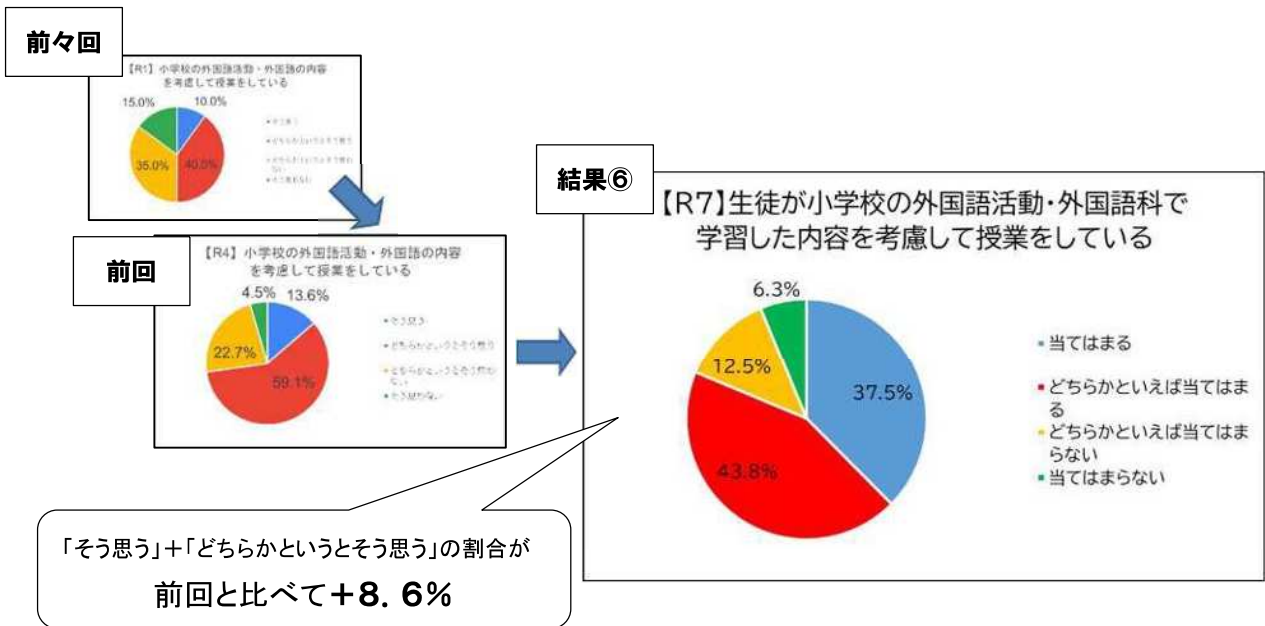
中学校英語の授業内容は

○気持ちや考えを英語で話す活動

○ディベート・ディスカッション

といった学習活動の時間が増加している。

一方で、ペアやグループでのスモールトークの時間は減少している。スモールトーク等で培った力を活用し、自分の考えを伝えることに直結するような活動が充実してきている。



まとめ

中学校教員アンケートからみてきたこと

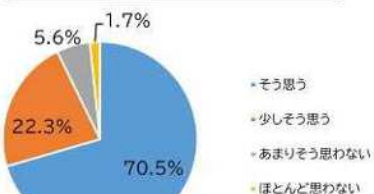
- 中学校英語科教員は、生徒のコミュニケーション力の向上に直結するような学習活動が培われた力を活用し、自分の考えを伝えるための学習を進んで取り入れるようになってきている。
- 中学校英語科教員は、小学校で学んできた外国語教育を考慮し、指導にあたっている。
- 生徒のコミュニケーション力の向上に直結するような学習活動に加え、「教科書本文を聞き取り、内容を理解する活動」や「文法事項のパターンプラクティス」等の知識・技能についての学習内容についてもしっかりと支援しており、生徒の学力の向上につながっていると考えられる。

(1) 小学校児童の現状

海老名市教育委員会では令和7年6月、小学校3～6年生各学年1クラスずつ抽出した774名を対象に「小学校外国語教育アンケート」を実施した。

結果①

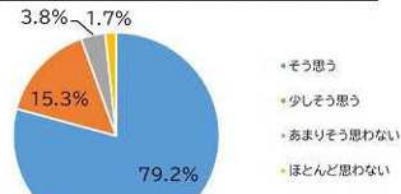
外国語の学習は大切だと思いますか。



■+■=92.8%

結果②

外国語を使えることは大切だと思いますか。



■+■=94.5%

結果③

外国語が使えるようになりたいですか。



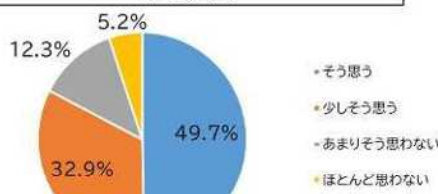
■+■=92.1%

考察① 【結果①～③より】

○外国語の学習や英語を使えることは大切だと考えている児童や外国語が使えるようになりたいと考えている児童が多い。外国語教育への意欲が高いことがわかる。

結果④

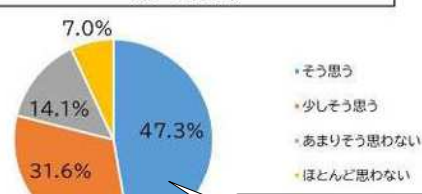
外国語活動の時間に、英語を「聞くこと」は楽しいですか。



■+■=82.6%

結果⑤

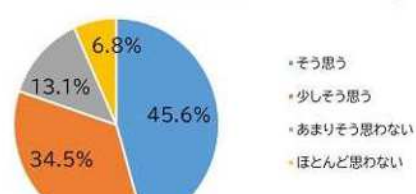
外国語活動の時間に、英語を「話すこと」は楽しいですか。



■+■=78.9%

結果⑥

これまでの外国語活動の時間をとおして、英語で話したり聞いたりすることがうまくなったと思いますか。



■+■=80.1%

考察② 【結果④～⑥より】

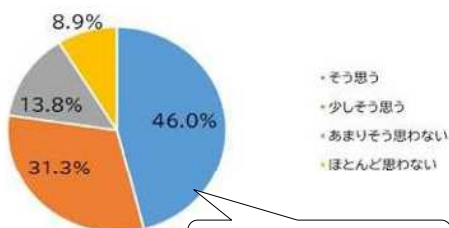
○英語を聞くことや話すことに、楽しんで取り組むことで、コミュニケーションの楽しさを感じている児童が多いことがわかる。

○自らのコミュニケーション力の向上を感じられている児童が多い。外国語活動・外国語の授業において、ALT や教師、友達とのかかわりを通して、学習したコミュニケーション力を発揮する場面において、認識できているものと考えられる。

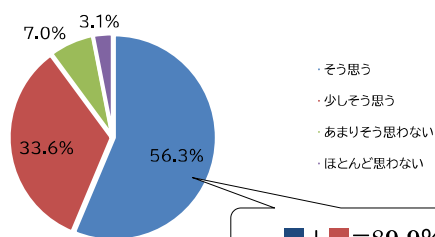


結果⑦

外国の人と話したいですか。

**結果⑧**

これまでの外国語かつどうの時間をとおして、たくさんのことばや外国のことを知ることができましたか。

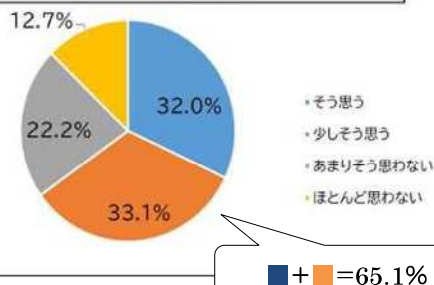
**考察③**

【結果⑦⑧より】

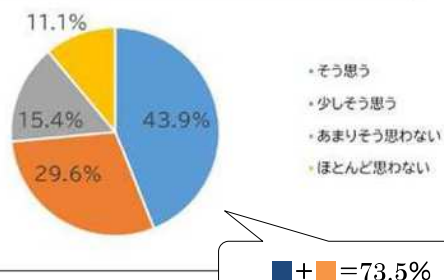
外国の人と話したい児童や、外国語を通して文化を知ることができている児童が多い。ALT と接し、外国の文化に触れることから、多文化共生の実現につなげていこうとする姿が見られる。

結果⑨

外国の人たちといっしょに しごとをしてみたいですか。

**結果⑩**

外国語で日本やえびなについてしょうかいしてみたいですか。

**考察④**

【結果⑨⑩より】

「考察①～③」で、小学校児童は外国語教育に進んで取り組んでいることがわかったが、外国の人と一緒に仕事をしたい児童や自国の文化や海老名のことを紹介してみたいという児童は、他の項目と比べるとやや少ない。学んだコミュニケーション力を生かす場を具体的に思い描くことが難しいのではないかと予想される。しかし、小学校6年生のみを対象とし毎年実施しているアンケートの、「将来、英語を使って仕事をしたり、外国語の人たちと一緒に仕事をしたい」という項目の令和6年度調査の結果では、肯定的回答は本調査とほぼ同等であるが、全国比では+7.4%と大きく上回る結果だった。

まとめ

小学校児童アンケートからみえてきたこと

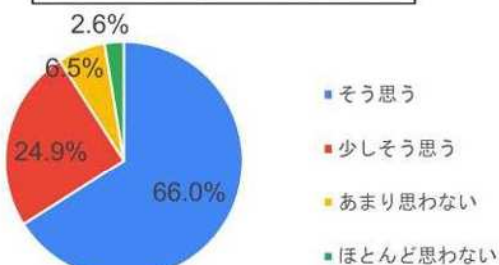
- 外国語の学習や英語を使えることは大切だと考えている児童や外国語が使えるようになりたい児童が多く、外国語教育への意欲が高い。
- 英語を「聞くこと」や「話すこと」、「コミュニケーションの楽しさ」を感じている児童が多く、ALT や教師、友達とのかかわりを通して、外国語活動・外国語の授業に楽しんで取り組んでいることがわかる。
- 将来、学んだコミュニケーション力を生かす場を具体的に思い描くことが難しい児童がいることから、EnglishDay のような学んだコミュニケーション力を発揮する場面を充実させていく等、工夫が求められる。

(4) 中学校生徒の現状

海老名市教育委員会では、令和7年6月、中学校各学年1クラスずつ抽出した644名を対象に「中学校外国語教育関アンケート」を実施した。

結果①

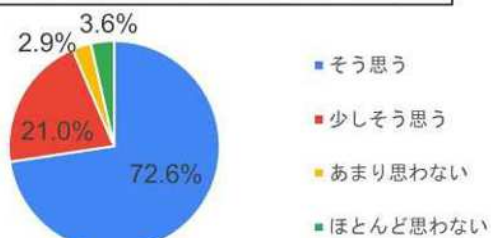
英語の学習は大切だと思いますか。



■+■=90.9%

結果②

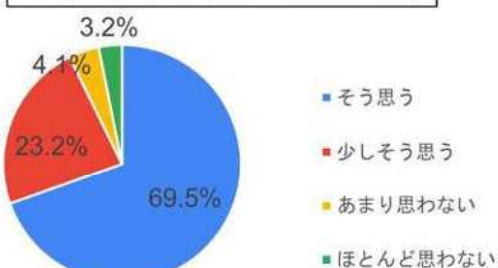
国際社会の中で、外国語でコミュニケーションをとることは大切だと思いますか。



■+■=93.6%

結果③

外国語が使えるようになりたいですか。



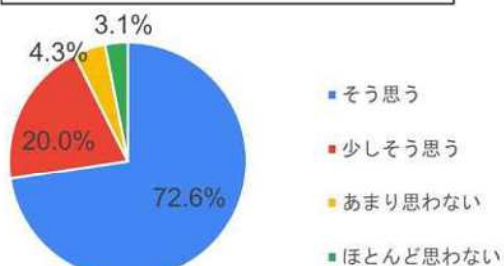
■+■=92.7%

考察① 【結果①～③より】

英語の学習やコミュニケーションをとることは大切だと考えている生徒や外国語が使えるようになりたいと考えている生徒が多い。外国語教育への意欲が高いことがわかる。

結果④

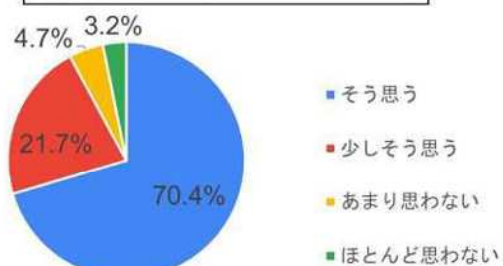
英語を聞きとれるようになりたいですか。



■+■=92.6%

結果⑤

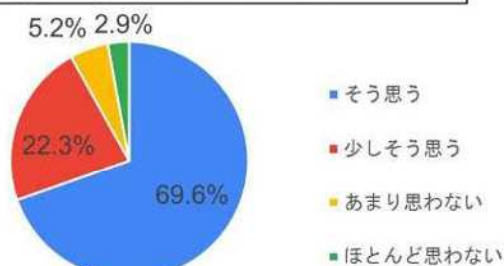
英語を話せるようになりたいですか。



■+■=92.1%

結果⑥

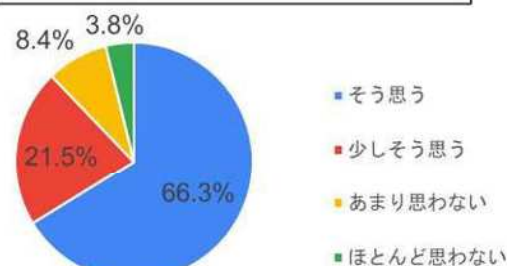
英語の文章を読むようになりたいですか。



■+■=91.9%

結果⑦

英語で文章を書けるようになりたいですか。



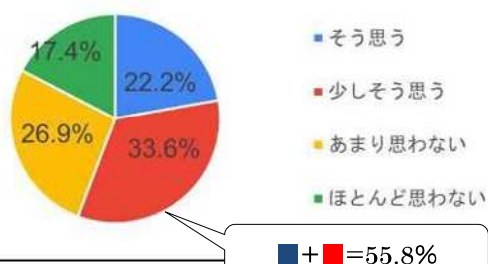
■+■=87.8%

考察② 【結果④～⑦より】

結果④～⑦の各設問では、肯定的(「そう思う」+「どちらかというと思う」)な回答の割合が 90%前後である。英語の「話す・聞く」「読む」「書く」の各領域について、より技能を向上させたいという気持ち強いことがわかる。

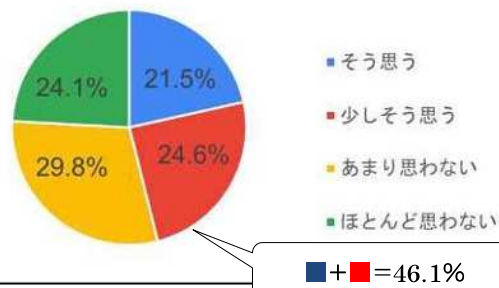
結果⑧

外国の人たちと一緒に仕事をしてみたいですか。



結果⑨

海外で勉強をしてみたいですか。



結果⑩

外国語で日本の文化や海老名についてなどを紹介してみたいですか。

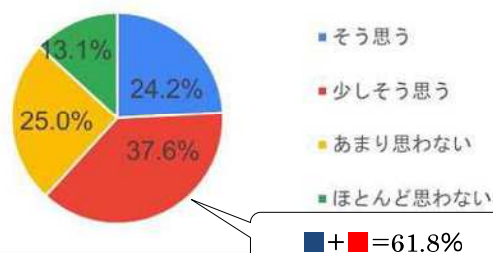


考察③ 【結果⑧～⑩より】

外国語教育の成果を発揮する場として、将来の仕事、海外での勉強、文化交流等に向けた意欲に十分結びついていない。「外国語を使えるようになりたい」生徒の割合は高いことから、外国語を話す目的や、使いたい場面が、調査項目以外のところにあると考えられる。今後に向け、丁寧な実態把握が必要な分野であることが分かる。

結果⑪

小学校での授業で学んだことを中学校の英語の授業で活かすことができていますか。



考察④ 【結果⑧～⑪より】

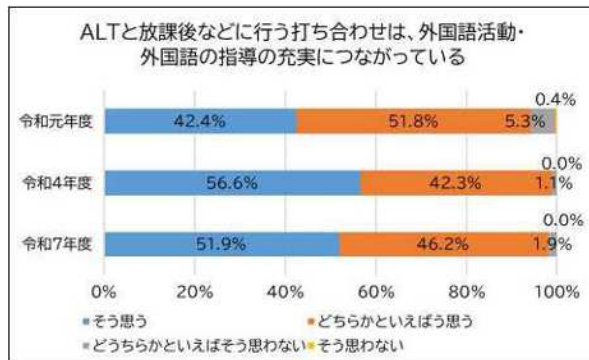
中学校教員が小学校での外国語教育が中学校の外国語教育が役立っていると回答(肯定的な回答が 93.8%)している一方で、生徒の肯定的な数字は伸び悩んでいる。児童生徒の視点に立った小中連携の充実を図る必要性がある。

まとめ 中学校生徒アンケートからみえてきたこと

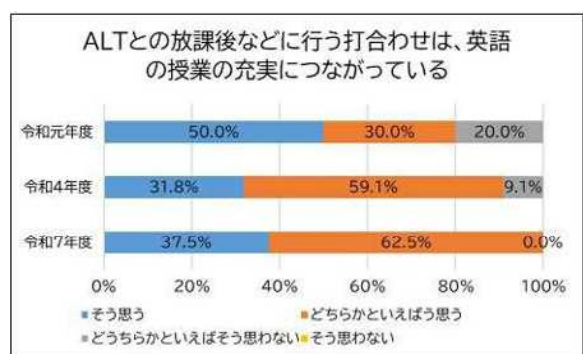
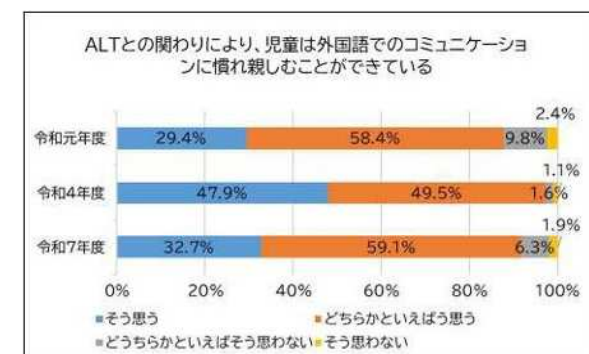
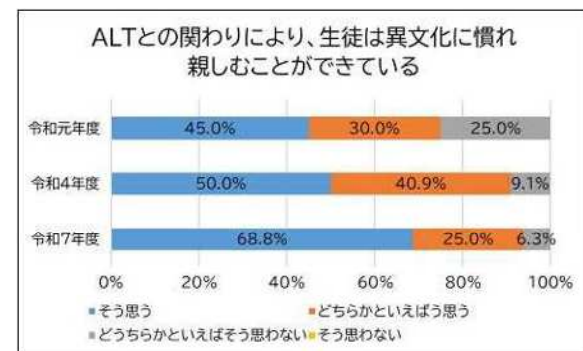
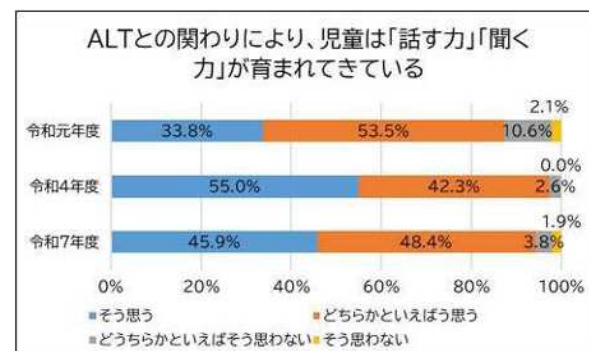
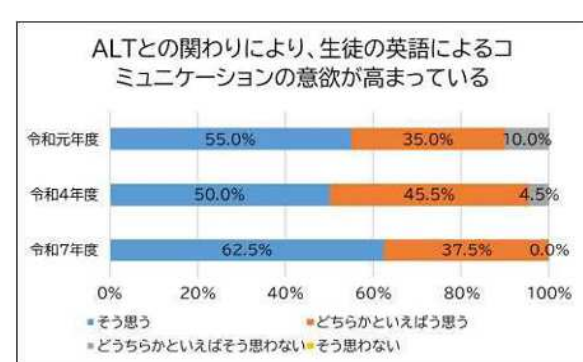
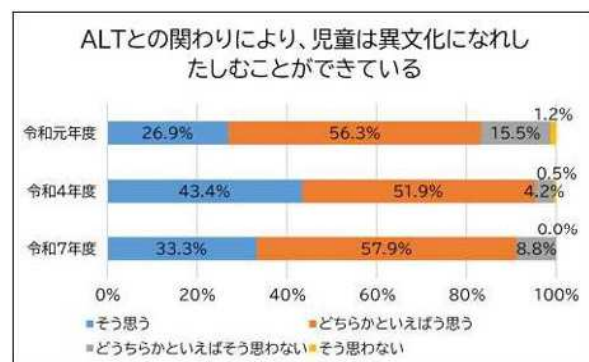
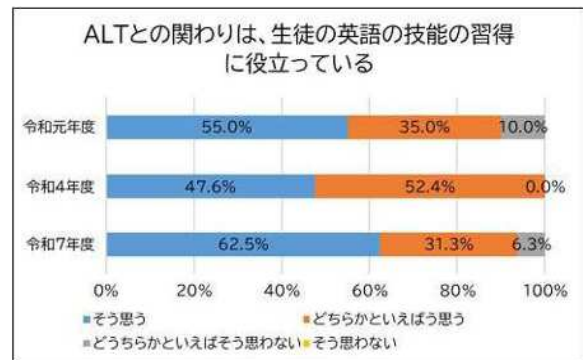
- 中学生生徒は、外国語教育への意欲が高い。また、「話す・聞く」「読む」「書く」の各領域について、より技能を向上させたいという気持ち強い。
- しかし、将来の仕事、海外での勉強、文化交流等、身に付けた英語力を具体的な場面で生かそうとする意欲に十分結びついていない。また、小学校からの学びのつながりを十分感じることができていない。
- 外国語によるコミュニケーション力の必要性を呼びかけたり、小学校や中学校の学びのつながりを意識した取組を充実させたりすることの重要性を感じる。

5) ALT 活用の現状

【小学校教員対象アンケートより】



【中学校英語科教員対象アンケートより】



ALTとの連携によってどのような効果が見られますか？（自由記述）

○ネイティブの英語に触れる機会（21人）

- ・ネイティブの表現に慣れ親しむことができる。
- ・正しい発音や音や正しい英語に触れる機会になっている。
- ・リアルな英語の聞き取りにつながっている。
- ・こども英語の正しい発音を習得できる。
- ・授業内で、表現や発音の確認ができる。
- ・日本人教師では指導しきれない発音や正しい英語に触れる機会がこどもたちに多くあること。

○授業内容の充実（20人）

- ・簡単な英語ではあるが、コミュニケーションをとることができる時間になっていると思う。
- ・異文化を取り入れたアクティビティや挨拶・表現・文法などを共有できる。
- ・授業がスムーズに進む。
- ・アイディアを出し合えることで、外国語の授業が充実する。
- ・複数の教員による指導が可能になる。
- ・学級や学年の児童の実態に応じて、ALTと一緒に指導内容を検討できる。
- ・授業の質が上がると感じる。
- ・ALTと相互にアイディアを出し合うことによって、より児童の実態に適した指導計画が組める。
- ・学習の流れがスムーズになり、児童もやることを理解しやすくなる。
- ・児童の実態に応じた授業展開ができる。
- ・HRTが間違えたとしても、会話を楽しんでいるという安心感を、ALTとの会話で生み出すことができる。
- ・デモンストレーションがしやすく、会話のイメージをもたせやすい。
- ・連携を図ることで、こどもたちにとって分かりやすい授業をつくることができる。
- ・ALTと教員が協働して授業を行うことで、こどもたちにも「聞いてみよう」「やってみよう」という意識が高まる。

○教職員の指導力・英語力向上（11人）

- ・教員の英語力向上につながると思う。
- ・授業づくりの方法が具体的にイメージできる。
- ・教員が英語に慣れ親しむことができる。
- ・専門性が高まる。
- ・授業の見通しがもてる。様々なアクティビティや授業展開を知れる。

○児童生徒の意欲の向上について（13人）

- ・海外の文化や本物と触れ合うことで英語を学ぶ必然性を高めることができる。
- ・ALTに廊下で会った時に、英語を使って挨拶をしようとする姿が見られる。
- ・外国語で話す必然性が生まれる。外国語を学ぶ楽しさを味わえる。
- ・外国の方とコミュニケーションを取ることへのハードルが下がる。
- ・一人の先生として興味をもち、その人のことをもっと知りたいと興味をもつことができている。
- ・英語を理解し、聞こうとする力につながっている。
- ・ALTとコミュニケーションをとることで、こどもの地震につながる場面がたくさん生まれる。
- ・外国語への抵抗感がなくなる。

○多文化共生の推進について(8人)

- ・国際理解につながると思う。
- ・文化の違いを肌で感じられる。
- ・外国の文化、風習を散ることができる。
- ・外国に親しみをもちやすくなる。
- ・子どもたちにとって、外国語を話す人々とのかかわりがもちにくい日本で、ALTとかかわるだけでもとても貴重な体験となっている。

【中学校のみ】(自由記述)

どのような学習場面で ALT を活用することが効果的だと思いますか。(16人)

- ・発音指導、音読指導
- ・学んだ英語を使って会話する活動
- ・英語を学ぶきっかけとなる small talk やデモンストレーション
- ・文化的な慣習等に関わるコミュニケーション活動
- ・スピーキングテスト等のパフォーマンステストにおける会話相手
- ・生徒同士の言語活動に入る前の、モデルや練習相手
- ・コミュニケーションを主とした言語活動の場面
- ・英語を話さなければならない目的・場面・状況をつくるために、ALT に見せたり話したりする活動
- ・グローバルエラーがどこなのか、知る機会になると生徒も教師も英語の表現に注意を向けることができると思う。
- ・文化的背景を語ってもらいたいとき

まとめ 「ALT 活用の現状について」からみてきたこと

- ALT との関わりにより、「児童生徒の技能の習得」「児童生徒のコミュニケーションへの意欲向上」「児童生徒の異文化への慣れ親しみ」「授業の充実」に 90%以上の教員が効果的であると回答しており、ALT 配置の効果が表れている。
- 前回調査よりも肯定的な回答の割合が増加した設問と、若干減少した項目がある。小学校教員については、小学校英語専科担当教員(加配)のほかに学校内専科教員や授業交換により、外国語活動・外国語を自身で担当していない教員が増加したことによる変動も少なからず影響していると考えられる。中学校教員については、技能向上に関する ALT の関わりよりも、外国語を話す必然性や意欲の向上につながる場面で ALT の活用が増えてきたことによる影響と考えられる。
- どの設問からも、小中学校教員は、児童生徒の成長について、ALT との関わりが大きく関与していることを概ね実感していることがわかる。
- 自由記述欄より、ALT が配置されることで、授業内容の充実、教職員の指導力・英語力向上、児童生徒の意欲向上、多文化共生の推進につながっていることがわかる。

4 海老名市外国語教育について

(1) グランドデザイン

本市の児童生徒が、わがまち海老名で育ったことに自信と誇りを持ち、身近な人々はもちろん、世界の多種多様な人々との出会いを楽しみ、お互いを尊重しながら、協働して社会に参画していく姿を目指して、海老名市の外国語教育を推進する。

【海老名市外国語教育がめざす児童生徒の将来の姿】

外国語で語り合い、世界の人々とのコミュニケーションを楽しむことができる
「えびなっこ」

【身に付ける資質・能力】

様々な人と自ら関わろうとする態度と豊かなコミュニケーション力

(どのように社会・世界と関わり、よい人生を送るか)

外国語の知識及び技能

(何を知っているか)

外国語で、理解し、表現する力

(知っていることをどう使うか)

えびなっこが身に付ける資質・能力

中学校

1～3年生

小学校 高学年

5～6年

小学校 中学年

3～4年

小学校 低学年

1～2年

外国語

外国語活動

○外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことを通して、外国語やその背景にある文化を理解するなどして、相手に十分配慮することができる。
○コミュニケーションを行う目的・場面・状況に応じて、世界の人々と自分の考えや気持ちを伝え合うことを通して、外国語による表現の幅が広がる喜びを感じることができる。

○外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことを通して、外国語やその背景にある文化の違いを理解することができる。
○コミュニケーションを行う目的・場面・状況に応じて様々な人々と自分の考えや気持ちを伝え合うことを楽しむことができる。

外国語を通して体験的に言語や文化を理解し、外国語を聞いたり話したりしながら基本的な表現に慣れ親しみ、身近な人と自分の考えや気持ちを伝え合うことを楽しむことができる。

外国語を通して体験的に言語や文化に触れ、外国語を聞いたり話したりしながらコミュニケーションを楽しむことができる。

《様々な人と自ら関わろうとする態度と豊かなコミュニケーション力》

- 主体的に学習に取り組む態度を含めた、学びに向かう力や、お互いの良さを生かして協働する力、そして優しさや思いやりなどの感性を育てる。

《思考力・判断力・表現力の育成》

- 他者に対して、根拠をもとに自分の考えを明確に説明しながら、対話や議論を通じて、多様な相手の考えを理解したり、自分の考えを広げ、協働したりする力を培う。

《外国語を運用する力の基礎・基本の育成》

- 小学校と中学校における授業・学びを接続する。
- 外国語を使って「何ができるようになるか」という観点から具体的な目標を設定する。
- 外国語を通して、「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」という観点から将来の進路や職業と結び付け、主体的に取り組む態度を育成する。

(2) 9年間で育てる子ども像・カリキュラム

9年間を通じて育てる子どもの姿（学習指導要領を基にしたCan-Doリスト）

	1年生～2年生 【外国語活動】	3年生～4年生 【外国語活動】	5年生～6年生 【外国語】	中学校 【外国語】
聞くこと	話し手がゆっくりはっきり話す、慣れ親しんだ言葉や表現を聞き取ろうとしている。	ア ゆっくりはっきりと話された際に、自分のことや身の回りの物を表す簡単な語句を聞き取るようにする。 イ ゆっくりはっきりと話された際に、身近で簡単な事柄に関する基本的な表現の意味が分かるようにする。 ウ 文字の読み方が発音されるのを聞いた際に、どの文字であるかが分かるようにする	ア ゆっくりはっきりと話されれば、自分のことや身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることができるようにする。 イ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取ることができるようにする。 ウ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、短い話の概要を捉えることができるようにする。	ア ゆっくりはっきりと話されれば、日常的な話題について、必要な情報を聞き取ることができるようにする。 イ ゆっくりはっきりと話されれば、日常的な話題について、話の概要を捉えることができるようにする。 ウ ゆっくりはっきりと話されれば、社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるようにする。
読むこと			ア 活字で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにする。 イ 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。	ア 日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものの必要な情報を読み取ることができるようにする。 イ 日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができるようにする。 ウ 社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の要点を捉えることができるようにする。
話すこと (やり取り)	挨拶や、歌、チャンツ、ゲーム等を通して、友達と一緒に楽しもうとしている。 相づちやジェスチャーを用いて慣れ親しんだ表現でやり取りをしようとしている。	ア 基本的な表現を用いて、挨拶、感謝、簡単な指示をしたり、それらに応じたりするようにする。 イ 自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うようにする。 ウ サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問したり質問に答えたりするようにする。	ア 基本的な表現を用いて指示、依頼をしたり、それらに応じたりすることができるようにする。 イ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする。 ウ 自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問したり質問に答えたりして、伝え合うことができるようにする。	ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする。 イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようにする。 ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを簡単な語句や文を用いて、述べ合うことができるようにする。
話すこと (発表)		ア 身の回りの物について、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。 イ 自分のことについて、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。 ウ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、人前で実物などを見せながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。	ア 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。 イ 自分のことについて、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。 ウ 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。	ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようにする。 イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。 ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて話すことができるようにする。
書くこと			ア 大文字、小文字を活字で書くことができるようにする。 また、語順を意識しながら音声十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする。 イ 自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。	ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて正確に書くことができるようにする。 イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする。 ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。

Can-Do リスト活用までの具体的な取組

令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度
海老名市外国語教育推進校として、大谷中学校区における研究 【小中協働による Can-Do リストの作成・活用】	◆大谷中学校区で作成した Can-Do リストの提案【海老名市モデル版（仮）】 ◆海老名市モデル版＋教科書会社作成版をもとに、各校・各学年（小5～中3）の Can-Do リスト作成・2 学期以降（目途）の実施⇒児童生徒への公表 「外国語教育担当者会議」での定期的な情報共有・作成・見直し・活用の周知	◆R8 年度作成 Can-Do リストの実施（各校） ⇒児童生徒・保護者への公表 ⇒目標達成状況の把握 ⇒R10 に向けた目標の見直し（3 学期）	◆R9 年度末作成の Can-Do リストの公表・実施・把握（各校） ⇒小中連携による目標の見直し

（3）具体的な取組

1 外国語教育実施計画

令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度
第 4 期計画の策定	第 4 期計画の実施及び成果と課題の検証		
【小学校の年間時数】 低学年：10 時間 中学年：35 時間 高学年：70 時間	【小学校の年間時数】 低学年：10 時間 中学年：35 時間 高学年：70 時間		第 5 期計画策定 （令和 11～13 年度の 3 か年）

✧ 外国語教育推進協議会において、計画の策定・実施及び成果と課題の検証を積み重ね、学習指導要領や海老名市の教育のニーズに沿った計画を更新していけるように努める。

2 研究実践

① 海老名市外国語教育推進校

令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度
海老名市外国語教育推進校として、大谷中学校区における研究	「海老名市外国語教育推進校」を指定		休止

✧ 毎年、1 中学校区（中学校 1 校、小学校 2 or 3 校）を推進校に指定し、外国語教育、授業の研究、授業の公開を依頼する。⇒第 4 期は休止とする。

② 小学校英語専科担当教員による研究実践

令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
小学校英語専科担当教員の研究と研究授業公開・協議会の実施 ※小学校専科担当教員本務校（地域の推進拠点校）と海老名市教育委員会の共催で実施			

- ✧ ③指導体制において示す小学校英語専科担当教員による授業公開・協議会をととして、市としての外国語教育の研究を進めていく。
- ✧ 海老名市教育委員会をととして、外部講師を依頼する。
 - 講師の選定・依頼については、ALT派遣委託業者と連携して行っていきたい。
- ✧ 開催校の教職員は、原則悉皆研修して参加する。その他の小中学校の教職員は希望研修として参加する。他校には海老名市教育委員会をととして開催案内の通知を行う。その際、同中学校区での公開授業については、積極的な参加を促す。

③ 中学校外国語教員による研究実践

令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
海老名市外国語教育推進校として、大谷中学校での公開授業研究	中学校外国語科教員による公開授業研究・協議会の実施 ※年間1回。実施校については、校長会をととして依頼する。		

- ✧ 中学校外国語教員による授業公開・協議会をととして、市としての外国語教育の研究を進めていく。
- ✧ 海老名市教育委員会をととして、外部講師を依頼する。
 - 講師の選定・依頼については、ALT派遣委託業者と連携して行っていきたい。
- ✧ 開催校の外国語科担当教員および小学校英語専科担当教員は、悉皆研修として参加する。その他の中学校の外国語科担当教員については、原則全員参加とするが、学校事情等により難しい場合には、各校最低1名は参加するものとする。
- ✧ 上記以外の小中学校教職員は希望研修として参加する。海老名市教育委員会をととして開催案内の通知を行う。その際、同中学校区での公開授業については、積極的な参加を促す。

3 指導体制

① 全小中学校にALTを派遣

令和 7 年度		令和 8 年度		令和 9 年度		令和 10 年度	
【派遣人数】				【派遣人数】			
13 名（小 10, 中 3）				13 名（小 10, 中 3）			
【業務時間】		小学校 8:30～17:00		中学校 8:30～16:30			

- ◇ 令和8年度からの3年間、令和7年度同様のALTを配置する理由は次の3点。
 - 外国語教育の目標は「コミュニケーション力の向上」であり、この目標に迫るためには学校の教育活動において、生きた本物のコミュニケーション場面を設定することが重要であり、ALTはその相手として必要不可欠であるから。
 - 外国人が共生社会の一員として今後の日本を形成する存在であることから、児童生徒が学校生活でALTと触れ合うことにより、児童生徒に異文化理解・多文化共生の考えが根付くようにするため。
 - 小中学校9年間をととして、グランドデザインで示した子どもの姿を目指すためには、ALTをより一層活用した外国語・外国語活動の授業づくりや教育活動の展開に長けたネイティブスピーカーの存在が必須であるから。
- ◇ よりALTを有効に活用できるよう、教員向けの研修を充実させる。
- ◇ 教員との打ち合わせや、授業準備、放課後の子どもとの関わりなど、有効に活用し、外国語教育を充実させる。

② 小学校に英語担当専科教員を配置

令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
市内4名 6校へ配置	継続の見通し ※文部科学省・県・市の調整によって配置人数が確定する		

- ◇ 外国語教育の専門性を持った教員によるきめ細かい教科指導と中学校の学びにつながる系統的な指導の充実を図る。
- ◇ 配置校等の調整は、市の配置人数が確定してから行う。
- ◇ 専科教員の本務校は、地域の外国語教育推進拠点校としての役割を担う。

4 教員研修会・担当者会

① 市教育委員会主催による教員への研修

令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
小中合同 外国語教育研修会 (講師2名による講義・選択研修)	外国語教育研修会 (選択研修として毎年1～2講座程度設定する)		

- ◇ A L T の活用法、教科書の活用法、学習評価についてなど、授業をイメージした実践的な内容の研修を行う。
- ◇ 小学校・中学校の指導段階別の研修や、小中合同研修を計画的に設定する。
- ◇ 実施方法や外部講師の選定・依頼・派遣については、A L T 派遣委託業者と連携して行っていくたい。

② ICT 機器を活用した教職員の授業準備支援

令和8年度	令和9年度	令和10年度
授業実践、優れた教材・教具の収集 教職員への周知		

- ◇ 授業実践動画や教材、教具の紹介を用いたコンテンツを活用した教職員の授業準備支援を行う。
- ◇ 優れた授業実践の共有について、A L T 派遣委託業者と連携して行っていくたい。

③ 外国語教育担当者会議

令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
外国語教育担当者会議 (4月・2月実施)	外国語教育担当者会議(年3回実施) ※第2回は、Can-Do リスト作成に係る会議とする		

- ◇ 国や県、市の方針を確認し、取組状況について情報交換を行うとともに、授業力向上と授業改善を図る。

5 小・中学校の連携

令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度
大谷中学校区における 授業公開・研究協議会	小学校英語専科担当教員および中学校における 授業公開・研究協議会		
同中学校区の他校種の学校へ授業参観			

- ◇ 同中学校区の他校種の授業を参観したり、担当者同士が協議会等で情報を共有したりしながら、それぞれの学校における外国語教育の充実を図っていく。

⑥ 外国語でのコミュニケーション・体験活動の充実

① 小中全校での「English Day」の開催

	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
小学校	全小学校で実施 【年1回】	全小学校で実施【年1回】 ☆学校が主導で実施 ★市内の全ALTを配置		
中学校		全中学校で実施【年間3日間(各学年1日)】 ☆学校が主導で実施 ★各日ALT9名配置		

- ◇ 小学校には、1つの学校に市内の全ALTを配置する。中学校には、市内配置以外のALTを各日9名（トレーナー1名含む）配置する。
- ◇ 小・中ともに1日中英語に親しむ日をつくり、英語で会話をする機会を増やすことで、コミュニケーションへの興味・関心を高める。さらに、中学校では日ごろの学習で学んだことを活用し、外国語による表現の幅が広がる喜びを感じられるようにする。
- ◇ 内容や形式は各学校の実態に合わせて計画、実施する。
- ◇ 実施方法については、ALT派遣委託業者と連携して行っていきたい。

② 海外の学校とのオンライン交流

令和5・6・7 年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
中学校で 2校ずつ実施	小学校 5・6年生で実施 (各校1回、5年生または6年生での実施)		

- ◇ 小学校5・6年生が、オンラインでつないだ海外の学校の児童と外国語で語り合い、交流することで、コミュニケーションの楽しさを体験する場を設ける。
- ◇ 実施方法については、ALT派遣委託業者と連携して行っていきたい。

③ 「スピーチコンテスト」への参加

令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
小学校4年生以上の 児童に周知	小学校4年生以上の児童に周知		

- ◇ 小学校高学年児童が、自分の伝えたいことを英語で発表することで、コミュニケーションの楽しさを体験する場を設ける。
- ◇ コンテストの実施方法について、ALT派遣委託業者と連携して行っていきたい。

7 全国学力・学習状況調査（中学校英語調査）の活用

令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度
- 調査の実施 - 結果の分析と小中学校へ周知	小中学校における授業改善	

- ◇ 調査結果の分析を行い、全小中学校へ公表し、結果を説明する。
- ◇ 中学校の調査であるが、今後小学校からの積み重ねによる影響はさらに大きくなる。小学校、中学校ともに、調査の結果、出題の傾向から、課題を見出し、今後の授業に生かしていく。

8 市教委によるサポート

① 小学校 1 ～ 2 年生外国語活動LESSンプラン、年間計画

令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度
前年度までのものを活用・見直し	LESSンプランの見直し・改善 全小学校へ周知		

- ◇ 小学校の担任主導の外国語・外国語活動の授業をサポートしていく。
- ◇ 外国語科については、採択した教科書会社の教師用指導書を活用し、指導にあたることができる。
- ◇ 特に小学 1 ・ 2 年生については、文部科学省からの教材もないため、海老名市として独自に作成したLESSンプラン・年間計画を活用しているため、見直し・改善が必要になる。
- ◇ LESSンプランの作成にあたっては、A L T 派遣委託業者と連携して行っていきたい。